

天神様 “菅原道真”

耀如晴雪（月の輝きは晴れたる雪の如し）

梅花似照星（梅の花は照れる星に似たり）

可憐金鏡轉（憐れむべし金鏡転じ）

庭上玉房馨（庭上に玉房香れるを）

空に輝く月は、お日様に照らされて、眩しく光る雪のよう
月の下でみる梅の花は、きらきらと輝く星のよう
澄み渡る鏡のように美しい月が、空を渡り
庭に咲く梅の花からは、よい香りがただよってくるなあ

菅原道真が、わずか11歳の時に詠んだ漢詩といわれます
学問の神、天神様と呼ばれ、右大臣にまで昇りつめた、歴史上の大人物ですが
この詩に触れた時、道真公の事が、とても慕わしく、身近に感じられました
清らかで、夢見る少女のようなお姿が浮かんできます（*^^*）

9月も後半に入って、小松方面へ出かけることになりました
約束の時間より早めに到着し、周りを車で走っていると
“小松天満宮”という文字が目に入り、あらっ?! と思いました
この、あらっ?! から、何かはじまっていく—— だいふパターンが読めてきました(笑)

天神様といえば、「通りゃんせ」で有名なので、よく知っているつもり? で
特に意識することはありませんでしたが、娘が大学生になって
初めて移り住んだ場所が、京都の北野天満宮のすぐ正面でした
石川在住の私が、アカデミーのセミナー等に参加するための拠点ともなっていて
今思えば、ご縁があつて、おいていただいたのだと思います
加賀百万石前田家は、菅原道真をご先祖とし

加賀藩の庭園であり、日本三名園の一つ“兼六園”の一面に
道真を御祭神とする“金澤神社”があります



緑に朱の社殿が鮮やかで、天辺に見える“鳳凰”が素敵です！



ホームページより
写真をおかりしました！

菅原道真の他に

白蛇龍神・白阿紫稻荷大明神・琴平大神

前田齊広(12代藩主)・前田齊泰(13代藩主)が祀られています

明治以前の神社への参拝は、春秋の例祭のみで
城下の婦子だけが許され、藩公から紋菓をいただいたとの事です
神域のトップには鳳凰(陽、女性性)が座っていて、婦子だけが参拝を許された…
武家社会(男性性)の中で護られてきた“愛と平和のオアシス”
そんな気がしてきました (*^^*)



2013年に参拝した時の写真ですが、

神前なのに、なんとなく礼拝堂のような感じ？

聖母マリアのイメージが浮かぶので、ちょっと調べてみました

菅原氏は、古墳の造営等で知られる技術集団、土師氏を先祖としていて

その土師氏は、秦氏の一族でもあるようです

秦氏は景教(キリスト教)を信奉していたとの事、だからでしょうか(*^^)v

“中今のハム山第5弾”にもありますが、秦氏の氏寺とされる、京都“広隆寺”の

弥勒菩薩半跏思惟像は、「一切衆生をいかにして救おうかと考えている」

根源母神の心であり、天照であり、キリストです

私のセンサーは、“至誠の神”道真公を指していたのですね(*^^*)

真心、愛の“赤”に対して

白蛇龍神・白阿紫稻荷大明神には“白”があり

“鳳凰”と“龍”、“天照”と“素戔嗚”の構図が見えるような気がします

金澤神社の近くに、“金城霊澤”という湧き水があります

金沢という地名の由来となった、芋掘藤五郎の砂金伝説で知られています

山から掘ってきた「芋」をここで洗うと、沢山の砂金が出てきたことから

「金洗いの沢」、「金沢」となったそうです

その天上には、今にも動き出しそうな、龍の絵が飾られていて

写真をみていると、その息づかいが聞こえてくるよう…

もう一度行ってみよう！と思い立ち、9月末日出かけました(^^)l



神門の前までくると、美しい光が…
まるで、本殿の天辺に立つ、鳳凰の翼を見るようです (*^^*)



神前は、ゴールド！黄金の海床？！ (*^^*)



見上げると、裸の赤子に向き合う、ド迫力の白蛇龍神！



こじんまりした神社ですが、膨大なものが潜んでいる気がします

神社の坂道を降りると、金城霊澤があります(右)



左に見えるのが、その碑を納めた 鳳凰山です
だたの小山に見えますが、江戸当初は、全国から奇岩、珍石を集め
翼を広げて舞い降りる“鳳凰”の姿として造られたそうです





未確認飛行物体発見?! (笑)



多重空間を感じます(^)



金城靈澤の中を覗いてみると、鏡のように美しい水面は、とても穏やかで
こんこんと水が湧き出ているようには思えない、静けさです
決して枯れることはなく、長雨によって外に溢れ出すこともないそうです



辺りは神聖で、眩しい光、澄み渡る気を感じ、この沢を守るかのように
天上裏には、白(金?)龍が描かれています



なんとなく、閉じ込められているような、物悲しさを覚えました

燦然と輝く太陽の化身“鳳凰”は、朽ちて土に埋もれ
縦横無尽に天と地の間を駆け巡る“龍”は
闇に押し込められてしまった。。

根源の光は、あらゆるものを、その真の姿へと帰す！！

今蘇り、“龍と鳳凰 ひとつなる”

その日の為、ここに、共にあった

∞の水と、金を湛えて——

私は、根源の光のポータルとなって祈りました

その場から離れたい気がして、かなり長い時間いましたが、私の前を
二匹のトンボが一つに重なって飛ぶ姿が目にとまり、嬉しさが広がっていきました

ここを離れたとしても、私の思いが消えるわけではない…

愛と平和を祈る心は、全てと共に在り続けるのだ、と強く思いました

『天の岩戸開き』冒頭の御神歌が浮かんでいます

人と神とが一体となった神人の“魂の光”と、日の本に張り巡らされていた

すべての根源の光のレイラインが共鳴し、響き愛、黄金の光を放つ時

日の本の黄金龍体は、地球をアセンションへと導く“天の鳥船”となって舞い上がる！！

“龍と鳳凰ひとつなる”時が、来ました！ (*^^*)



国の重要文化財である、小松天満宮神門です

加賀藩三代藩主前田利常公により明暦3年(1657)に造営され、
その目的は、小松城、金沢城の鬼門の線上に正確に造営する事によって

怨霊から加賀藩を守ることだったそうです

前田家は菅原道真を祖先とするため、天皇家の祈願所であった
京都北野天満宮から御祭神を遷座する事ができ、神具は全て北野天満宮を模し

社殿は、その四分の一に縮小して造られたとの事です

私を、金澤神社へと再び導いてくれたのが、小松天満宮、天神様です
偶然目にして行ってみよう！だったので、工事中？なんだかよくわかりません

時間もあまりなく、あわてて本殿にて、ご挨拶と感謝を述べ

数枚の写真を撮って、その場を後にしました

参拝後に撮った、神門の写真が、とても気に入ってしまいました！

夢、雄々しくあれ！ 天神様の声が聞こえるようです

後に調べてみると、梯川の洪水処理能力向上を図る改修事業で

小松天満宮を、浮島化？するそうです


“浮島”から、浮船＝“宇宙船”が連想され

境内の中心に立っていた、不思議な石柱の事が頭に浮かびました

他のどこにもないという、“十五重の塔”は、
近未来宇宙基地の、レーダーのようなもの？ かもしれません
根源へのアセンションは、時代の錯綜?! なんでもあり! かも(笑)



右手に、眩しい太陽が見えるのですが、何故か写真には写りません
やっぱり、ちょっと 不思議な塔です(***)



今、“愛の星地球”のために準備された、たくさんの宝物が
目覚めようとしている——
封印をとくのは、その願いと同じ波動
“愛”だけなのだと思います

夢にむかって！ 2016. 10. 1 ハムネス